

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科目： 家庭基礎 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 2 学年 A 組～ G 組
 教科担当者：
 使用教科書： 「家庭基礎 自立・共生・創造」

教科 家庭 の目標：
 【知識及び技能】生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それに係る技能を
 【思考力、判断力、表現力等】生涯を見通して生活の中から問題を見出して課題を解決する力を身に付ける
 【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協働し地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しよう

科目 家庭基礎	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている
	【学びに向かう力、人間性等】
	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域の生活充実向上を図るために実践しようとしている

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 生涯を見通す ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解できるようにする。・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描けるようにする。 第2章 人生をつくる ・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えると、さまざまな生き方について理解できるようにする。将来の充実した生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解できる。・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるようにするために、社会を改善する必要があることを理解する。	家庭科の学び方 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	【知識・技能】 自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を通して生活課題に対し意思決定していくことの重要性について理解を深めている 【思考・判断・表現】 ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活、自己の意思決定に基づき責任をもって行動することについて、課題を設定し、解決策を構想し、実践・考察するなどして課題を解決する力を身に付けている 【主体的学習に取り組む態度】 生涯の生活設計や青年期の課題について主体的に取り組む、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている	○	○	○	10
	第6章 食生活をつくる ・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 ・配膳やマナーに関心を持つ。・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 ・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになることを理解する。	1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	【知識・技能】 ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、食品の調理上の特性、食品衛生をふまえて、自己や家族の食生活の計画・管理及び調理に必要な技能を身につけている 【思考・判断・表現】 自己や家族の食事を工夫できるとともに、食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活を営む力を身につけている 【主体的学習に取り組む態度】 食生活の課題などに主体的に取り組む、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている	○	○	○	14
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	生活に生かそう 自分の意見を文章にまとめよう	【知識・技能】 ホームプロジェクトの活動意義と実施方法について理解している 【思考・判断・表現】 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、課題を設定し、解決策を構想し、実践・考察するなどして課題を解決する力を身につけている 【主体的学習に取り組む態度】 生活上の課題などに主体的に取り組む、自分や家族、地域生活の充実向上	○	○	○	3
定期考査				○	○		1

2 学 期	<p>第3章 子どもと共に育つ</p> <p>・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。・子どもが健康やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする</p>	<p>1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境</p>	<p>〔知識・技能〕 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援についての知識および乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身につけている</p> <p>〔思考・判断・表現〕 子どもを生み育てることの意義について考えることができ、子どもの健康やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の課題を解決しようとする力を身につけている</p> <p>〔主体的学習に取り組む態度〕 子供の健康やかな成長のための課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている</p>	○	○	○	10
	<p>第4章 超高齢社会を共に生きる</p> <p>・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 ・超高齢社会の課題を踏まえて、自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考え、行動しようとする。</p> <p>第5章 共に生き、共に支える</p> <p>・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする</p>	<p>1 超高齢・大衆長寿社会の到来2 高齢者の心身の特徴3 これからの超高齢社会 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる</p>	<p>〔知識・技能〕 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護についての知識及び生活支援に関する基礎的な技能を身につけている</p> <p>〔思考・判断・表現〕 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性についての課題を解決しようとする力を身につけている</p> <p>〔主体的学習に取り組む態度〕 高齢者の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている</p>	○	○	○	7
	<p>第7章 衣生活をつくる</p> <p>・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。・現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるため定期考査</p>	<p>1被服の役割を考える 2被服を入手する 3被服を管理する 4衣生活の文化と知恵 5これからの衣生活</p>	<p>〔知識・技能〕 ライフステージに応じた住生活の特徴、防犯などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な知識や技能を身につけている</p> <p>〔思考・判断・表現〕 防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫できる</p> <p>〔主体的学習に取り組む態度〕 住生活の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている</p>	○	○	○	10
				○	○		1

3 学 期	<p>第9章 経済生活を営む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。 ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 ・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。 ・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。 ・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について理解する。 	<p>1情報の収集・比較と意思決定 2購入・支払いのルールと方法 3消費者の権利と責任 4生涯の経済生活を見通す 5これからの経済生活</p>	<p>〔知識・技能〕 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解し、生活情報を適切に収集・整理できる</p> <p>〔思考・判断・表現〕 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な社会と消費について問題を見出して課題を設定し、課題を設定し、解決策を構想し、実践・考察するなどして課題を解決する力を身につけている</p> <p>〔主体的学習に取り組む態度〕 消費行動と意思決定や持続可能なライフスタイルと環境の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている</p>	○	○	○	7
	<p>第8章 住生活をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 ・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 ・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。 	<p>1住生活の変遷と住居の機能 2安全で快適な住生活の計画 3住生活の文化と知恵 4これからの住生活 1生活をデザインする</p>	<p>〔知識・技能〕 ライフステージに応じた住生活の特徴、防犯などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な知識や技能を身につけている</p> <p>〔思考・判断・表現〕 防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫できる</p> <p>〔主体的学習に取り組む態度〕 住生活の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている</p>	○	○	○	6
	定期考査				○	○	
							合計
							70